

令和6年感染症発生動向調査概要

1 定点把握対象疾患

(1)小児科・インフルエンザ/COVID-19・眼科・基幹定点報告疾病

令和6年の患者報告数は33,948件であった。報告が多かった疾病は、新型コロナウイルス感染症9,296件、インフルエンザ8,459件及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎6,040件等であった。

1 定点当たりの患者報告数は、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎6.11人で全国平均3.04人よりも大幅に高く、新型コロナウイルス感染症6.16人で全国平均6.21人とほぼ同等、インフルエンザ5.61人で全国平均7.44人よりも低かった。

(2)性感染症(STD)定点報告疾病

性感染症(STD)定点報告対象4疾病(性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症)の患者報告数は545件であり、性器クラミジア感染症280件、性器ヘルペスウイルス感染症137件、尖圭コンジローマ51件及び淋菌感染症77件であった。いずれも男性の割合が高く、地域別では西部地区での割合が高かった。

(3)基幹定点報告疾病

基幹定点報告対象3疾病(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症)の患者報告数は112件であり、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症103件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症8件及び薬剤耐性緑膿菌感染症1件であった。

2 全数把握対象疾患

(1)1類感染症

鳥取県、全国とも発生はなかった。

(2)2類感染症

鳥取県では、結核50件の報告があった。

(3)3類感染症

鳥取県では、腸管出血性大腸菌感染症21件の報告があった。

(4)4類感染症

鳥取県では、レジオネラ症9件、日本紅斑熱8件、A型肝炎2件、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)2件及びつつが虫病1件の報告があった。

(5)5類感染症

鳥取県では、百日咳383件、梅毒41件、侵襲性肺炎球菌感染症13件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症11件、急性脳炎(ウエストナイル脳炎等を除く。)6件、アメーバ赤痢5件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症4件、侵襲性インフルエンザ菌感染症3件、水痘(入院例に限る。)2件、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)1件、クロイツフェルト・ヤコブ病1件、後天性免疫不全症候群1件、播種性クリプトコックス症1件及び破傷風1件の報告があった。

3 新型コロナウイルス感染症のゲノム解析結果

新型コロナウイルス感染症のゲノム解析の結果では、年間を通してオミクロン系統株の流行が見られた。その中でも、特に KP.3 系統は 6 月から 10 月まで検出割合のほとんどを占める結果となった。

4 感染症集団発生・臨時休業

鳥取県内における感染症集団発生・臨時休業は、新型コロナウイルス感染症 326 件、インフルエンザ 312 件（集団発生 99 件、臨時休業 213 件）、感染性胃腸炎 49 件、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 4 件、RS ウイルス感染症 12 件、咽頭結膜熱 5 件、手足口病 33 件及びマイコプラズマ肺炎 1 件であった。

5 病原体検査状況

検体受入件数は 1,902 件であった。全数把握対象疾患では、多い順に腸管出血性大腸菌感染症 110 件、日本紅斑熱 38 件、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）22 件、麻疹 14 件、つつが虫病 12 件、風しん 11 件等であった。定点把握対象疾患では、新型コロナウイルス感染症 1,540 件、感染性胃腸炎 69 件、インフルエンザ 39 件等であった。

腸管出血性大腸菌感染症、日本紅斑熱等の 13 疾病の 16 種類 34 型（血清型、遺伝子型、遺伝子型および遺伝子群を含む）のウイルス、リケッチア及び細菌が検出された。主なものは以下のとおり。

(1) 腸管出血性大腸菌感染症

O55 が 2 件、O111 が 9 件、O146 が 1 件、O157 が 13 件等検出された。

(2) 日本紅斑熱

日本紅斑熱リケッチアが 10 件検出された。

(3) 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

SFTS ウイルスが 2 件検出された。

(4) 感染性胃腸炎

ノロウイルスが 28 件、アデノウイルス 10 件、アストロウイルス 6 件等検出された。

(5) インフルエンザ(インフルエンザ様疾患も含む)

AH3 亜型が 2 件、AH1pdm09 亜型が 22 件、B 型ビクトリア系統が 8 件等検出された。